

表 19 18 か月間発がん性試験（マウス）で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
1,000 ppm	<ul style="list-style-type: none"> ・精巣上体間質性線維化 ・精巣び慢性間質細胞過形成 ・精巣胚上皮萎縮 	<ul style="list-style-type: none"> ・体重増加抑制 ・脳 ChE 活性阻害 (20%以上)
320 ppm 以上	<ul style="list-style-type: none"> ・体重増加抑制 ・赤血球及び脳 ChE 活性阻害 (20%以上) ・精巣上体上皮空胞化 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤血球 ChE 活性阻害 (20%以上)
32 ppm 以下	毒性所見なし	毒性所見なし

1 2. 生殖発生毒性試験

(1) 2 世代繁殖試験（ラット）

SD ラット（P 世代：一群雌雄各 30 匹、F₁ 世代：一群雌雄各 25 匹）を用いた混餌（原体：0、10、100 及び 300 ppm）投与による 2 世代繁殖試験が実施された。

親動物では、300 ppm 投与群の P 雌で体重増加抑制が認められた。

児動物では、検体投与の影響は認められなかった。

本試験における無毒性量は、親動物の雄で本試験の最高用量 300 ppm（P 雄：21.2 mg/kg 体重/日、F₁ 雄：25.7 mg/kg 体重/日）、雌で 100 ppm（P 雌：8.4 mg/kg 体重/日、F₁ 雌：9.6 mg/kg 体重/日）、児動物で本試験の最高用量 300 ppm（P 雄：21.2 mg/kg 体重/日、P 雌：24.8 mg/kg 体重/日、F₁ 雄：25.7 mg/kg 体重/日、F₁ 雌：28.2 mg/kg 体重/日）であると考えられた。繁殖能に対する影響は認められなかった。（参照 8）

(2) 発生毒性試験（ラット）

SD ラット（一群雌 25 匹）の妊娠 6～15 日に強制経口（原体：0、10、30 及び 90 mg/kg 体重/日、溶媒：0.5%CMC）投与し、発生毒性試験が実施された。

母動物では、90 mg/kg 体重/日投与群で振戦、流涎、眼球突出、着色尿等がみられ、2 例の死亡が認められた。さらに、体重増加抑制及び摂餌量減少が認められた。

胎児では、90 mg/kg 体重/日投与群で骨格変異として、舌骨未骨化、胸骨分節未骨化、尾椎骨化遅延又は第 14 肋骨を有する胎児の総数に有意な増加がみられたが、各変異を有する胎児及び腹の発生頻度には有意差は認められなかった。

本試験における無毒性量は、母動物及び胎児で 30 mg/kg 体重/日であると考えられた。催奇形性は認められなかった。（参照 8）

(3) 発生毒性試験（ウサギ）

NZW ウサギ（一群雌 18～20 匹、80 mg/kg 体重/日群のみ 33 匹）の妊娠 6～18 日に強制経口（原体：0、10、40 及び 80 mg/kg 体重/日、溶媒：1%CMC）投与し、発生毒性試験が実施された。なお、80 mg/kg 体重/日群では不妊及び死亡動物が多

くみられたため、交配確認動物が追加された。

母動物では、80 mg/kg 体重/日投与群で 17 例が死亡した。さらに同群では体重増加抑制、摂餌量減少及び全胚死亡（2 例）が認められた。

胎児では、検体投与に関連した毒性影響は認められなかった。

本試験における無毒性量は、母動物で 40 mg/kg 体重/日、胎児で本試験の最高用量 80 mg/kg 体重/日であると考えられた。催奇形性は認められなかった。（参照 8）

1.3. 遺伝毒性試験

フェントエートの細菌を用いた DNA 修復試験、復帰突然変異試験、チャイニーズハムスター卵巣由来培養細胞（CHO）を用いた染色体異常試験、マウス及び細菌を用いた宿主経路試験、マウスを用いた小核試験が実施された。

結果は表 20 に示されており、すべて陰性であったので、フェントエートに遺伝毒性はないものと考えられた。（参照 8）

表 20 遺伝毒性試験概要（原体）

試験	対象	処理濃度・投与量	結果	
in vitro	DNA 修復試験	<i>Bacillus subtilis</i> (H17、M45 株)	245～24,500 µg/7 日	陰性
	復帰突然変異試験	<i>Salmonella typhimurium</i> (TA98、TA100、TA1535、 TA1537、TA1538 株) <i>Escherichia coli</i> (WP2 <i>hcr</i> 株)	①500～5,000 µg/7 日 (-S9) ②10～1,000 µg/7 日 (+/-S9)	陰性
	染色体異常試験	チャイニーズハムスター 卵巣由来細胞 (CHO)	50.2～201 µg/mL (+/-S9) 100～201 µg/mL (+S9)	陰性
in vitro/ in vivo	宿主経路試験	ICR マウス（一群雄 6 匹） <i>S. typhimurium</i> (G46 株)	100、300 mg/kg 体重 (2 回腹腔内投与)	陰性
in vivo	小核試験	ICR マウス（骨髄細胞） (一群雄 6 匹)	75、150、300 mg/kg 体重 (単回強制経口投与) (投与 24 時間後と殺)	陰性

注) +/-S9 : 代謝活性化系存在下及び非存在下

代謝物 B の細菌を用いた復帰突然変異試験及びマウスを用いた小核試験が実施された。

結果は表 21 に示されているとおり、すべて陰性であった。（参照 8）

表 21 遺伝毒性試験概要 (代謝物)

被験物質	試験	対象	処理濃度	結果
代謝物 B	復帰突然 変異試験	<i>S. typhimurium</i> (TA98, TA100, TA1535, TA1537 株)	4.88~5,000 µg/プレート (+/-S9)	陰性
	小核試験	ICR マウス (骨髄細胞) (一群雄 6 匹)	300, 600, 1,200 mg/kg 体重 (単回強制経口投与) (投与 24 時間後と殺)	陰性

注) +/-S9 : 代謝活性化系存在下及び非存在下

14. その他の試験

(1) 解毒試験 (マウス)

ICR マウス (一群雌雄各 10 匹) にフェントエートを単回経口投与し、投与 10 分後にアトロピンを腹腔内 (0, 60 mg/kg 体重) 投与して、フェントエートの解毒試験が実施された。フェントエートの投与量は、アトロピン投与群では 347~1,040 mg/kg 体重、アトロピン非投与群では 289~600 mg/kg 体重とした (溶媒: コーン油)。

各投与群における LD₅₀ は表 22 に示されている。

アトロピン投与群で、非投与群に比べ LD₅₀ が高かったことから、アトロピンが本剤の解毒剤として有効であることが示唆された。(参照 8)

表 22 解毒試験 (マウス) における LD₅₀

性別	アトロピン非投与群		アトロピン投与群	
	雄	雌	雄	雌
LD ₅₀ (mg/kg 体重)	416	403	587	547

(2) 解毒試験 (ラット)

SD ラット (一群雄 10 匹) にフェントエートを単回経口投与 (原体: 400 及び 1,000 mg/kg 体重、溶媒: コーン油) し、投与直後、1、3 及び 6 時間後にアトロピン単独又はアトロピンとプラリドキシム (PAM) を併用投与して、フェントエートの解毒試験が実施された。アトロピンの投与量は、0, 0.1, 1 及び 10 mg/kg 体重、PAM の投与量は 0, 2.5, 25 及び 250 mg/kg 体重とし、腹腔内投与した。

各投与群における死亡率は表 23 に示されている。フェントエート 400 mg/kg 体重投与群での、アトロピン (10 mg/kg 体重) と PAM (250 mg/kg 体重) の併用投与における死亡は、PAM の大量投与が原因と考えられた。フェントエート 1,000 mg/kg 体重投与群では、アトロピン単独又はアトロピンと PAM の併用投与では死亡率に差は認められず、これらの解毒剤は、致死量のフェントエート投与時の救命効果は認められなかった。

臨床症状は、フェントエート 400 mg/kg 体重投与群においては発現頻度が低く、

アトロピン又はPAMの効果が明らかではなかったが、フェントエート 1,000 mg/kg 体重投与群では、アトロピン単独又はアトロピンと PAM の併用投与により、振戦等の症状の減少が認められた。体重変化に対する解毒作用は明らかではなかった。
(参照 8)

表 23 解毒試験（ラット）における死亡率

	フェントエート 400 mg/kg 体重投与群						
アトロピン (mg/kg 体重)	0	0.1	1	10	0.1	1	10
PAM (mg/kg 体重)	0	0	0	0	2.5	25	250
死亡率 (%)	0	0	0	0	0	0	20
	フェントエート 1,000 mg/kg 体重投与群						
アトロピン (mg/kg 体重)	0	0.1	1	10	0.1	1	10
PAM (mg/kg 体重)	0	0	0	0	2.5	25	250
死亡率 (%)	80	90	90	70	100	90	100

(3) 解毒試験（ラット：追加試験）

SD ラット（一群雄 10 匹）にフェントエートを単回経口投与（原体：780 mg/kg 体重、溶媒：コーン油）し、投与直後、1、3 及び 6 時間後にアトロピン単独又はアトロピンと PAM を併用投与して、フェントエートの解毒試験が実施された。アトロピンの投与量は、0、0.1、1 及び 10 mg/kg 体重、PAM の投与量は 0、2.5、25 及び 250 mg/kg 体重とし、腹腔内投与した。

各投与群における死亡率は表 24 に示されている。アトロピン単独投与群では、全群で解毒剤非投与群よりも死亡率の減少が認められたが、アトロピン及び PAM 併用投与群では、死亡率の減少は明らかではなかった。

臨床症状に関しては、アトロピン単独投与群又はアトロピンと PAM 併用投与群で発現頻度の減少又は発現時間の遅れの傾向が認められたが、体重に関する影響は明らかではなかった。（参照 8）

表 24 解毒試験（ラット：追加試験）における死亡率

	フェントエート 780 mg/kg 体重投与群						
アトロピン (mg/kg 体重)	0	0.1	1	10	0.1	1	10
PAM (mg/kg 体重)	0	0	0	0	2.5	25	250
死亡率 (%)	40	10	30	20	50	20	80

注) アトロピン 10 mg/kg 体重+PAM250 mg/kg 体重投与群は、フェントエート投与 1 時間後 1 回のみ投与された。他の投与群は、フェントエート投与後 4 回投与された。

Ⅲ. 食品健康影響評価

参照に挙げた資料を用いて、農薬「フェントエート」の食品健康影響評価を実施した。

¹⁴C で標識したフェントエートを用いた動物体内運命試験の結果、経口投与されたフェントエートの吸収率は 79.8~87.8%と算出された。血中における T_{max}は 2~4 時間であり、その後血中濃度は速やかに減少した。体内では腎臓及び肝臓に比較的多く分布したが、組織残留性は認められなかった。主要排泄経路は尿中であった。尿中に親化合物は検出されず、尿中の主要代謝物は F であった。糞中では親化合物が最も多い成分であった。

¹⁴C で標識したフェントエートを用いた植物体内運命試験の結果、水稻では親化合物は速やかに代謝され、主要代謝物 B 並びにその他の代謝物 D 及び C が検出されたが、処理 1 日後には 10%TRR 以下となった。みかんでは、試料中の主要成分は親化合物であり、代謝物はいずれも 10%TRR 未満であった。

フェントエートを分析対象化合物として作物残留試験が実施された。フェントエートの最高値は、最終散布 28 日後に収穫した温州みかん（果皮）の 4.65 mg/kg であった。

各種毒性試験結果から、フェントエート投与による影響として、主に ChE 活性阻害が認められた。発がん性、繁殖能に対する影響、催奇形性及び遺伝毒性は認められなかった。

各種試験結果から、農産物中の暴露評価対象物質をフェントエート（親化合物のみ）と設定した。

各試験の無毒性量等は表 25 に示されている。

食品安全委員会は、各試験で得られた無毒性量のうち最小値がイヌを用いた 2 年間慢性毒性試験の 0.29 mg/kg 体重/日であったので、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.0029 mg/kg 体重/日を ADI と設定した。

ADI	0.0029 mg/kg 体重/日
(ADI 設定根拠資料)	慢性毒性試験
(動物種)	イヌ
(期間)	2 年間
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	0.29 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

暴露量については、当評価結果を踏まえて暫定基準値の見直しを行う際に確認することとする。

表 25 各試験における無毒性量等の比較

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量 (mg/kg 体重/日) ¹⁾		
			JMPR	食品安全委員会	参考資料 (農薬抄録)
ラット	90日間 亜急性 毒性試験	0, 5, 10, 30, 100, 300, 1,000 ppm	/	雄: 0.69 雌: 0.66	雄: 0.69 雌: 0.66
		雄: 0, 0.35, 0.69, 2.05, 7.00, 22.3, 81.0 雌: 0, 0.32, 0.66, 1.95, 6.51, 20.2, 69.0		雌雄: 赤血球 ChE 活性阻害 (20%以 上)	雌雄: 赤血球 ChE 活性阻害
	90日間 亜急性 神経毒性 試験	0, 10, 100, 1,000 ppm		雄: 5.70 雌: 6.46	雄: 0.58 雌: 0.65
		雄: 0, 0.58, 5.70, 57.5 雌: 0, 0.65, 6.46, 65.2		雌雄: 赤血球 ChE 活性阻害 (20%以 上) (神経毒性は認 められない)	雌雄: 赤血球 ChE 活性阻害 (神経毒性は認 められない)
2年間 慢性毒性/ 発がん性 併合試験	0, 3, 10, 100, 300 ppm	/	雄: 16.2 雌: 22.0	雄: 16.2 雌: 22.0	
	雄: 0, 0.2, 0.5, 5.4, 16.2 雌: 0, 0.2, 0.7, 7.2, 22.0		雌雄: 毒性所見な し (発がん性は認 められない)	雌雄: 毒性所見な し (発がん性は認 められない)	
2世代 繁殖試験	0, 10, 100, 300 ppm	/	親動物 P 雄: 21.2 P 雌: 8.4 F ₁ 雄: 25.7 F ₁ 雌: 9.6 児動物 P 雄: 21.2 P 雌: 24.8 F ₁ 雄: 25.7 F ₁ 雌: 28.2	親動物 P 雄: 21.2 P 雌: 8.4 F ₁ 雄: 25.7 F ₁ 雌: 28.2	
	P 雄: 0, 0.7, 7.1, 21.2 P 雌: 0, 0.8, 8.4, 24.8 F ₁ 雄: 0, 0.8, 8.5, 25.7 F ₁ 雌: 0, 0.9, 9.6, 28.2		親動物 雄: 毒性所見なし 雌: 体重増加抑制 児動物: 毒性所見 なし (繁殖能に対す る影響は認めら れない)	親動物 P 雌: 体重抑制 P 雄、F ₁ 雌雄: 毒 性所見なし 児動物: 毒性所見 なし (繁殖能に対す る影響は認めら れない)	

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量 (mg/kg 体重/日) ¹⁾		
			JMPR	食品安全委員会	参考資料 (農薬抄録)
	発生毒性試験	0, 10, 30, 90		母動物：30 胎児：30 母動物：体重増加抑制等 胎児：骨格変異を有する胎児の総数増加 (催奇形性は認められない)	母動物：30 胎児：30 母動物：体重増加抑制等 胎児：骨格変異を有する胎児の総数増加 (催奇形性は認められない)
マウス	90日間 亜急性 毒性試験	0, 5, 10, 30, 100, 300, 1,000 ppm		雄：4.16 雌：4.43 雌雄：赤血球 ChE 活性阻害 (20%以上)	雄：4.16 雌：4.43 雌雄：赤血球 ChE 活性阻害
		雄：0, 0.72, 1.30, 4.16, 14.1, 43.4, 142 雌：0, 0.73, 1.32, 4.43, 14.1, 49.9, 153		雄：5.4 雌：6.7 雌雄：赤血球 ChE 活性阻害 (20%以上) 等 (発がん性は認められない)	雄：5.4 雌：6.7 雌雄：赤血球 ChE 活性阻害 (発がん性は認められない)
	18か月間 発がん性 試験	0, 32, 320, 1,000 ppm		雄：5.4 雌：6.7 雌雄：赤血球 ChE 活性阻害 (20%以上) 等 (発がん性は認められない)	雄：5.4 雌：6.7 雌雄：赤血球 ChE 活性阻害 (発がん性は認められない)
ウサギ	発生毒性試験	0, 10, 40, 80		母動物：40 胎児：80 母動物：体重増加抑制等 胎児：毒性所見なし (催奇形性は認められない)	母動物：40 胎児：80 母動物：体重増加抑制等 胎児：毒性所見なし (催奇形性は認められない)
イヌ	90日間 亜急性 毒性試験	0, 10, 30, 100 ppm		雄：0.32 雌：0.33 雌雄：赤血球 ChE 活性阻害 (20%以上)	雄：0.32 雌：0.33 雌雄：赤血球 ChE 活性阻害
		雄：0, 0.32, 0.96, 3.17 雌：0, 0.33, 0.98, 3.38			

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量 (mg/kg 体重/日) ¹⁾		
			JMPR	食品安全委員会	参考資料 (農薬抄録)
	2年間 慢性毒性 試験	0、10、30、100 ppm	/	雄：0.29 雌：0.33	雄：0.29 雌：0.33
		雄：0、0.29、0.93、 3.16 雌：0、0.33、0.86、 3.03		雌雄：赤血球 ChE 活性阻害 (20%以 上)	雌雄：赤血球 ChE 活性阻害
	ADI		NOAEL：0.29 SF：100 ADI：0.003	NOAEL：0.29 SF：100 ADI：0.0029	NOAEL：0.29 SF：100 ADI：0.0029
	ADI 設定根拠資料		イヌ 2年間慢性 毒性試験	イヌ 2年間慢性 毒性試験	イヌ 2年間慢性 毒性試験

ADI：一日摂取許容量 NOAEL：無毒性量 SF：安全係数

¹⁾：無毒性量欄には、最小毒性量で認められた主な毒性所見等を記した。

¹⁾：JMPR では 1980 年にフェントエートの評価がなされているが、評価に用いた試験はそれ以前に実施された非 GLP 試験であったため、食品健康影響評価は抄録を用いることで可能と判断し、JMPR については 1984 年の資料に記載されている結論 (ADI) のみを参照した。

<別紙1：代謝物/分解物略称>

記号	略称	化学名
B	PAP acid (PAP 酸)	<i>S</i> α-カルボキシベンジル=O,O-ジメチル=ホスホロジチオエート
C	Demethyl PAP	<i>S</i> α-カルボエトキシベンジル=O-メチル=ホスホロジチオエート
D	PAP oxon	<i>S</i> α-カルボエトキシベンジル=O,O-ジメチル=ホスホロチオエート
E	PAP oxon acid	<i>S</i> α-カルボキシベンジル=O,O-ジメチル=ホスホロチオエート
F	Demethyl PAP oxon acid	<i>S</i> α-カルボキシベンジル=O-メチル=ホスホロチオエート
G	MPAE disulfide	ビス[α-(エトキシカルボニル)ベンジル]ジスルフィド
H	MPA disulfide	ビス(α-カルボキシベンジル)ジスルフィド
I	<i>S</i> -methyl MPA	α-メチルチオフェニル酢酸
J	<i>S</i> -methyl MPA sulfoxide	α-メチルスルフィニルフェニル酢酸
K	Ethyl mandelate	エチル=マンデラート
L	Mandelic acid	マンデル酸
M	Phenylglyoxylic acid	フェニルグリオキシル酸
N	Phenylacetic acid	フェニル酢酸

<別紙2：検査値等略称>

略称	名称
ACh	アセチルコリン
A/G 比	アルブミン/グロブリン比
ai	有効成分量
AUC	薬物濃度曲線下面積
BUN	血液尿素窒素
ChE	コリンエステラーゼ
Chol	コレステロール
CMC	カルボキシメチルセルロース
C _{max}	最高濃度
FOB	機能観察総合検査
Glu	グルコース (血糖)
Hb	ヘモグロビン (血色素) 量
His	ヒスタミン
LC ₅₀	半数致死濃度
LD ₅₀	半数致死量
NA	ノルアドレナリン
PAM	ブラリドキシム
PHI	最終使用から収穫までの日数
RBC	赤血球数
T _{1/2}	消失半減期
T _{max}	最高濃度到達時間
TAR	総投与 (処理) 放射能
TP	総蛋白質
TRR	総残留放射能
WBC	白血球数

<別紙3：作物残留試験成績>

作物名 (分析部位) 実施年	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェントエート			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
水稲 (玄米) 2007年度	1	938 ^{EC}	2	7	0.008	0.008	<0.005	<0.005
				14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	21			<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
	1			13	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	20	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
水稲 (玄米) 1994年度	1	416 ^{EC}	2	7	0.006	0.006	0.005	0.005
	1			7	0.009	0.008	0.007	0.007
	1			7			<0.005	<0.005
	1			7			0.006	0.006
水稲 (玄米) 1993年度	1	416 ^{EC}	2	7			<0.005	<0.005
	1			7			0.013	0.012
水稲 (玄米) 1990年度	1	1,200 ^D	2	7	0.013	0.013	0.008	0.008
	1			7	0.005	0.005	<0.005	<0.005
水稲 (玄米) 2007年度	1	1,200 ^{DL}	2	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	21			<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
	1			13	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	20	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
水稲 (玄米) 1979年度	1	875 ^{EC}	1	93	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
	1			132	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
水稲 (玄米) 1988年度	1	500 ^{EC} (空中散布)	1	80	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1			80	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1	500 ^{EC} (地上散布)	1	77	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1			77	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
水稲 (玄米) 1974年度	1	500 ^{EC}	2	18	0.009	0.009	<0.005	<0.005
	1		1	41	0.002	0.002	0.014	0.012
	1		1	102	<0.002	<0.002	<0.005	<0.005
水稲 (稲わら) 2007年度	1	938 ^{EC}	2	7	0.66	0.66	0.97	0.96
				14	0.14	0.14	0.11	0.11
	21			0.22	0.22	0.09	0.09	
	1			13	0.20	0.20	0.32	0.32
	20	0.18	0.18	0.31	0.30			
水稲 (稲わら) 1994年度	1	416 ^{EC}	2	7	0.299	0.287		
	1			7	1.10	1.08		
水稲 (稲わら) 1993年度	1	416 ^{EC}	2	7			0.335	0.333
	1			7			0.755	0.754

作物名 (分析部位) 実施年	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェントエート			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
水稻 (稲わら) 1990年度	1	1,200 ^D	2	7	0.578	0.574	0.666	0.644
	1			7	0.253	0.252	0.130	0.128
水稻 (稲わら) 2007年度	1	938 ^{EC}	2	7	0.16	0.16	0.25	0.24
				14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
	21			<0.05	<0.05	0.05	0.05	
	1			13	0.16	0.15	0.11	0.10
20	0.09	0.09	0.06	0.06				
水稻 (稲わら) 1979年度	1	875 ^{EC}	1	93	0.118	0.114	0.028	0.026
	1			132	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
水稻 (稲わら) 1988年度	1	500 ^{EC} (空中散布)	1	80	<0.01	<0.01	0.011	0.010
	1			80	<0.01	<0.01	0.016	0.014
	1	500 ^{EC} (地上散布)	1	77	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
				77	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
水稻 (稲わら) 1974年度	1	500 ^{EC}	2	18	0.645	0.620	0.56	0.54
	1		1	41	0.500	0.474	0.33	0.32
	1		1	102	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
小麦 (種子) 1979年度	1	750 ^{EC}	4	7	0.015	0.015	0.012	0.011
				14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1			21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				13	0.019	0.019	0.015	0.014
20	0.006	0.006	<0.005	<0.005				
小麦 (種子) 1979年度	1	500 ^{EC}	1	9	0.023	0.021	0.034	0.034
				16	0.007	0.006	0.005	0.005
				23	0.026	0.022	<0.005	<0.005
				16	0.008	0.008	<0.005	<0.005
	1			13	0.005	0.005	<0.005	<0.005
				20	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				20	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
小麦 (麦わら) 1979年度	1	750 ^{EC}	4	7	1.20	1.08	0.891	0.870
				14	0.040	0.040	0.132	0.116
	1			21	0.034	0.034	0.019	0.016
				13	1.12	1.08	1.02	0.972
20	0.31	0.30	0.326	0.304				
とうもろこし (生子実) 1976年度	1	500~ 750 ^{EC}	4	14	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
	1	3,000 ^{EC}	4	13	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
とうもろこし (乾燥子実) 1976年度	1	500~ 750 ^{EC}	4	14	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
	1	3,000 ^{EC}	4	13	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005

作物名 (分析部位) 実施年	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェントエート			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
とうもろこし (生食用子実) 1985年度	1	600 ^{EC}	1	14	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001
				30	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001
	1	667 ^{EC}	1	14	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001
				30	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001
とうもろこし (飼料用茎葉部) 1985年度	1	600 ^{EC}	1	14	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001
				30	<0.005	<0.005	0.001	0.001
	1	667 ^{EC}	1	14	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001
				30	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001
だいず (未熟子実) 1971年度	1	500 ^{EC}	2	7			0.002	0.002
だいず (乾燥子実) 1971年度	1		2	50			<0.001	<0.001
だいず (乾燥子実) 1987年度	1	750 ^{EC}	2	10			<0.005	<0.005
	1			14			<0.005	<0.005
だいず (乾燥子実) 1991年度	1	500 ^{EC}	1	23	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
だいず (乾燥子実) 1990年度	1	500 ^{EC}	2	64			<0.005	<0.005
		750 ^{EC}	2	64			<0.005	<0.005
だいず (乾燥子実) 2002年度	1	1,000 ^{EC}	2	7	0.010	0.010	0.010	0.010
				14	0.010	0.010	0.009	0.008
				21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
1	750 ^{EC}	2	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	

作物名 (分析部位) 実施年	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェントエート			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
だいず (乾燥子実) 2007年度	1	1,330 ^{DL}	2	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1			7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
あずき (乾燥子実) 1988年度	1	750 ^{EC}	2	7	/	/	<0.005	<0.005
	14			/	/	0.012	0.010	
	1			8	/	/	<0.005	<0.005
	15			/	/	<0.005	<0.005	
あずき (乾燥子実) 2003年度	1	750 ^{EC}	2	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1	1,000 ^{EC}	2	7	0.018	0.018	0.010	0.010
				14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
いんげんまめ (乾燥子実) 1988年度	1	750 ^{EC}	2	7	/	/	<0.005	<0.005
	14			/	/	<0.005	<0.005	
	1			8	/	/	<0.005	<0.005
	15			/	/	<0.005	<0.005	
いんげんまめ (乾燥子実) 2003年度	1	750 ^{EC}	2	7	0.006	0.006	0.005	0.005
				14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1	1,160 ^{EC}	2	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
えんどうまめ (乾燥子実) 1988, 1989年度	1	1,650~ 1,700 ^{EC}	2	7	/	/	0.012	0.012
	14			/	/	<0.005	<0.005	
	1	750 ^{EC}	2	7	/	/	<0.005	<0.005
				14	/	/	<0.005	<0.005
えんどうまめ (乾燥子実) 2005, 2006年度	1	750 ^{EC}	2	7	/	/	0.007	0.007
				14	/	/	0.006	0.006
	1	1,000 ^{EC}	2	7	/	/	<0.005	<0.005
				14	/	/	<0.005	<0.005
そらまめ (乾燥子実) 1988年度	1	750 ^{EC}	2	7	/	/	<0.005	<0.005
				14	/	/	<0.005	<0.005
	1	1,000 ^{EC}	2	7	/	/	<0.005	<0.005
				14	/	/	<0.005	<0.005

作物名 (分析部位) 実施年	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)				
					フェントエート				
					公的分析機関		社内分析機関		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
ばれいしょ (塊茎) 1987年度	1	750 ^{EC}	2	14			<0.005	<0.005	
	1			14			<0.005	<0.005	
ばれいしょ (塊茎) 2003年度	1	750 ^{EC}	2	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
	1	1,000 ^{EC}	2	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
ばれいしょ (塊茎) 1992年	1	800 ^{WP}	2	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
	1			7	0.007	0.006	0.030	0.030	
	14			<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
さといも (塊茎) 1991年度	1	1,000 ^{EC}	1	7			<0.005	<0.005	
				14			<0.005	<0.005	
				21			<0.005	<0.005	
	1	1,500 ^{EC}	1	7			<0.005	<0.005	
				14			<0.005	<0.005	
				21			<0.005	<0.005	
さといも (塊茎) 2005年度	1	1,500 ^{EC}	1	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
	1			7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
かんしょ (塊根) 2005年度	1	1,500 ^{EC}	4	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
	1	1,000 ^{EC}		7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
かんしょ (可食部) 1972年度	1	1,330 ^{MG}	2	29	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				13	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
	1			29	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				13	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
だいこん (根部) 1987年度	1	750 ^{EC}	2	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				30			<0.005	<0.005	
	だいこん (葉部) 1987年度			1	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
					30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
					30			<0.005	<0.005

作物名 (分析部位) 実施年	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)					
					フェントエート					
					公的分析機関		社内分析機関			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
かぶ (根部) 1987年度	1	750 ^{EC}	2	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
	1			30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
	1			30			<0.005	<0.005		
	1			30			<0.005	<0.005		
かぶ (根部) 1987年度	1					30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1					30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1					30			<0.005	<0.005
	1					30			<0.005	<0.005
はくさい (茎葉) 1987年度	1	750 ^{EC}	2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
	1			3	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
	1			2	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
	1			3	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
	1			2	21			<0.005	<0.005	
	1			3	21			<0.005	<0.005	
	1			2	21			<0.005	<0.005	
	1			3	21			<0.005	<0.005	
キャベツ (可食部) 1971、1972年度	1	1,000 ^{EC}	2	14			<0.001	<0.001		
	1			14			<0.001	<0.001		
キャベツ (葉球) 1983年度	1	500 ^{EC}	1	14	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001		
	1	地上散布		14	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001		
	1	500 ^{EC}	1	14	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001		
	1	空中散布		14	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001		
キャベツ (葉球) 1987年度	1	750 ^{EC}	2	14			<0.005	<0.005		
	1			14			<0.005	<0.005		
キャベツ (葉球) 2003年度	1	1,500 ^{EC}	2	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
	1			21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
	1			28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
	1	1,000 ^{EC}	2	14	0.007	0.006	0.008	0.008		
キャベツ (可食部) 1972年度	1	1,200 ^{MG}	2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
	1			28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
	1			14			<0.005	<0.005		
カリフラワー (花蕾・茎) 1990年度	1	1,000 ^{EC}	2	14			<0.005	<0.005		
	1			21			<0.005	<0.005		
	1			30			<0.005	<0.005		
	1	750 ^{EC}	2	14			<0.005	<0.005		
	1			21			<0.005	<0.005		
	1			30			<0.005	<0.005		

作物名 (分析部位) 実施年	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェントエート			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
ブロッコリー (花蕾) 2006年度	1	1,500 ^{EC}	2	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				35	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1		2	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				35	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
ブロッコリー (花蕾・茎) 1990年度	1	1,000 ^{EC}	2	30			<0.005	<0.005
ブロッコリー (花蕾・茎) 1992年度	1			31			0.011	0.010
ブロッコリー (花蕾) 2004、2005	1	750~ 1,000 ^{EC}	2	42	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1	1,000 ^{EC}	2	42	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
ごぼう (根部) 1989年度	1	750 ^{EC}	2	7			0.005	0.005
	1		3	14			<0.005	<0.005
	1		2	7			<0.005	<0.005
	1		3	14			<0.005	<0.005
ごぼう (根部) 2005年度	1	1,250 ^{EC}	3	7			<0.005	<0.005
		14				<0.005	<0.005	
	1	1,500 ^{EC}	3	7			<0.005	<0.005
				14			<0.005	<0.005
レタス (可食部) 1973年度	1	1,000 ^{EC}	2	21			0.022	0.020
レタス (茎葉) 1987年度	1	750 ^{EC}	2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1			21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1			21			<0.005	<0.005
	1			21			<0.005	<0.005
レタス (茎葉) 2005年度	1	1,500 ^{EC}	2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		28		<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
	1	1,000 ^{EC}	2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		28		<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
たまねぎ (可食部) 1972年度	1	750 ^{EC}	2	14			<0.01	<0.01
	1			4			<0.01	<0.01

作物名 (分析部位) 実施年	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェントエート			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
たまねぎ (鱗茎) 2003年度	1	1,000 ^{EC}	2	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1	1,500 ^{EC}	2	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
ねぎ (茎葉) 2005年度	1	1,000 ^{EC}	1	21	0.012	0.012	0.005	0.005
				28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				42	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1	1,500 ^{EC}	1	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				42	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
アスパラガス (若茎) 2005年度	1	1,500 ^{EC}	2	3	/	/	<0.005	<0.005
				7	/	/	<0.005	<0.005
	1			3	/	/	<0.005	<0.005
				7	/	/	<0.005	<0.005
わけぎ (茎葉) 1985年度	1	1,000 ^{EC}	2	2	14	0.012	0.012	/
				3	14	0.019	0.017	/
				4	14	0.018	0.017	/
わけぎ (茎葉) 1986年度	1			2	14	0.013	0.012	/
				3	14	0.008	0.008	/
				4	14	0.008	0.008	/
食用ゆり (鱗茎) 2004年度	1	1,000 ^{EC}	3	7	/	/	<0.005	<0.005
				14	/	/	<0.005	<0.005
	1	750 ^{EC}	3	7	/	/	<0.005	<0.005
				14	/	/	<0.005	<0.005
にんじん (根部) 2006年度	1	500~ 750 ^{EC}	1	90	0.009	0.009	0.020	0.020
かぼちゃ (果実) 1989年度	1	750 ^{EC}	3	3	/	/	0.019	0.019
				7	/	/	0.008	0.007
	1			3	/	/	<0.005	<0.005
				7	/	/	<0.005	<0.005
かぼちゃ (果実) 2005年度	1	1,500 ^{EC}	3	3	0.005	0.005	0.008	0.008
				7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1	1,100 ^{EC}	3	3	0.006	0.006	0.011	0.010
				7	0.007	0.007	0.008	0.008
				14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

作物名 (分析部位) 実施年	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェントエード			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
しろうり (果実) 1989年度	1	750 ^{EC}	2	7	/	/	<0.005	<0.005
			3	3 7	/	/	0.008	0.008
	1		2	7	/	/	<0.005	<0.005
			3	3 7	/	/	<0.005	<0.005
すいか (果実) 1989年度	1	750 ^{EC}	2	7	/	/	<0.005	<0.005
			3	3 7	/	/	<0.005	<0.005
	1		2	7	/	/	<0.005	<0.005
			3	3 7	/	/	<0.005	<0.005
すいか (果実) 2007年度	1	1,500 ^{EC}	3	3	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
すいか (果実) 2006年度	1	1,000 ^{EC}	3	3	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
プリンスメロン (可食部) 1976年度	1	1,500 ^{EC}	4	3	0.003	0.003	0.004	0.004
メロン (果実) 2007年度	1	1,250 ^{EC}	4	3	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1	1,500 ^{EC}	4	3	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
まくわうり (果実) 2005年度	1	1,500 ^{EC}	4	7	/	/	0.019	0.018
				14	/	/	<0.005	<0.005
	1	1,100 ^{EC}	4	3	/	/	<0.005	<0.005
				7	/	/	<0.005	<0.005
ほうれんそう (茎葉) 2007年度	1	750 ^{EC}	1	21	0.024	0.024	0.016	0.016
				28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				42	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1	150~ 400 ^{EC}	1	21	0.024	0.024	0.016	0.016
				28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				42	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
さやえんどう (さや) 2006年度	1	1,500 ^{EC}	1	28	/	/	<0.005	<0.005
	1			28	/	/	<0.005	<0.005

作物名 (分析部位) 実施年	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェントエート			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
さやいんげん (さや) 2004年度	1	1,000 ^{EC}	1	7 14	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	0.007 <0.005	0.007 <0.005
	1	750 ^{EC}	1	7 14	0.009 <0.005	0.009 <0.005	0.007 <0.005	0.006 <0.005
えだまめ (さやを含む) 1987年度	1	750 ^{EC}	2	14	/	/	0.088	0.087
	1			14	/	/	0.023	0.023
未成熟そらまめ (豆) 2006年度	1	1,500 ^{EC}	2	7 14	/	/	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
	1	1,430 ^{EC}	2	7 14	/	/	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
温州みかん (果肉) 2007年度	1	3,500 ^{EC}	2	14	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
				21	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
				28	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
				42	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
1	2,750 ^{EC}	2	14	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01	
			21	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01	
			26	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01	
			40	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01	
温州みかん (果皮) 2007年度	1	3,500 ^{EC}	2	14	3.79	3.70	3.73	3.72
				21	3.60	3.58	3.70	3.66
				28	4.65	4.47	3.43	3.36
				42	4.10	3.95	3.28	3.25
	1	2,750 ^{EC}	2	14	1.19	1.17	1.66	1.56
				21	1.05	1.01	1.45	1.45
				26	1.29	1.27	1.42	1.38
				40	0.371	0.358	0.71	0.69
温州みかん (未成熟果実) 1979年度	1	2,500 ^{EC}	1	62	<0.002	<0.002	0.007	0.006
	1	2,860 ^{EC}	1	70	<0.002	<0.002	0.005	0.004
温州みかん (果肉) 1979年度	1	2,500 ^{EC}	1	163	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
	1	2,860 ^{EC}	1	166	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
温州みかん (果肉) 1979年度	1	2,500 ^{EC}	1	163	0.037	0.034	0.073	0.066
	1	2,860 ^{EC}	1	166	<0.005	<0.005	0.003	0.002
なつみかん (果実全体) 2005年度	1	7,000 ^{EC}	2	14	0.559	0.558	0.796	0.778
				21	0.683	0.674	0.855	0.854
				28	0.668	0.654	0.658	0.648
	1	3,000 ^{EC}	2	14 21 28	0.151 0.217 0.170	0.145 0.211 0.168	0.240 0.212 0.199	0.230 0.212 0.190

作物名 (分析部位) 実施年	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェントエート			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
すだち (果実全体) 2005年度	1	1,500 ^{EC}	2	14	/	/	1.52	1.50
				21			2.04	2.02
				28			1.82	1.72
かぼす (果実全体) 2005年度	1	3,200 ^{EC}	2	14	/	/	0.811	0.793
				21			0.966	0.947
				28			0.437	0.437
りんご (果実) 2006年度	1	2,400 ^{WP}	1	56	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1	2,000 ^{WP}	1	56	0.005	0.005	<0.005	<0.005
日本なし (果実) 2004年度	1	2,500 ^{WP}	2	56	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1			55	0.014	0.014	0.025	0.025
西洋なし (果実) 2004年度	1	2,500 ^{WP}	2	56	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1			56	0.014	0.014	0.019	0.019
もも (果肉) 1972年度	1	125 ^{EC} /樹	2	69	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
				73	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
もも (果皮) 1972年度	1			69	<0.008	<0.008	<0.008	<0.008
				73	<0.008	<0.008	<0.008	<0.008
おうとう (果実) 2008年度	1	2,000 ^{EC}	2	69	<0.01	<0.01	/	/
				76	<0.01	<0.01		
				83	<0.01	<0.01		
ぶどう 1972年度	1	6,250 ^{EC}	1	120	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
	1		1	135	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
			2	135	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
ぶどう (果実) 1983年度	1	2,500 ^{EC}	2	132	<0.005	<0.005	/	/
	1	2,000 ^{EC}	2	122	<0.005	<0.005		
ぶどう (果実) 1983年度	1	2,500 ^{EC}	2	132	/	/	<0.002	<0.002
	1	2,000 ^{EC}	2	122			<0.002	<0.002
かき (果実) 1980年度	1	1,600 ^{WP} (空中散布)	2	31	<0.002	<0.002	<0.003	<0.003
				41	<0.002	<0.002	-	-
				53	<0.002	<0.002	<0.003	<0.003
	1	1,600 ^{WP} (通常散布)	2	31	<0.002	<0.002	<0.003	<0.003
				41	<0.002	<0.002	-	-
				53	<0.002	<0.002	<0.003	<0.003

作物名 (分析部位) 実施年	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェントエート			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
かき (果実) 1992年度	1	2,500 ^{WP}	4	30	0.013	0.013	0.019	0.016
				45	<0.005	<0.005	0.007	0.007
	1	1,500 ^{WP}	4	44	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
くり (果実) 1973年度	1	2,000 ^{EC}	2	6	0.015	0.012	/	/
				12	0.002	0.002	/	/
			4	6	0.012	0.010	/	/
				12	0.010	0.009	/	/
	1	400 ^{EC}	3	44	<0.002	<0.002	/	/
				47	<0.002	<0.002	/	/
くり (果実) 2005年度	1	3,500 ^{EC}	4	14	<0.005	<0.005	/	/
				21	<0.005	<0.005	/	/
	1	2,500 ^{EC}	4	14	<0.005	<0.005	/	/
				21	<0.005	<0.005	/	/
くり (果肉) 1989年度	1	2,000 ^{EC}	2	41	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	41	<0.005	<0.005	<0.005
くり (種実) 1988年度	1	2,000 ^{EC}	2	24	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		1,750 ^{EC}	2	24	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
くり (果肉) 1990年度	1	2,000 ^{EC} (地上散布)	2	39	/	/	<0.005	<0.005
		2,000 ^{EC} (空中散布)	2	39	/	/	<0.005	<0.005
	1	2,000 ^{EC} (空中散布①)	2	41	/	/	<0.005	<0.005
		2,000 ^{EC} (空中散布②)	2	41	/	/	<0.005	<0.005
茶 (葉) 1973年度	1	1,000 ^{EC}	2	20	/	/	0.012	0.009
		1,500 ^{EC}	2	20	/	/	0.042	0.039
茶 (浸出液) 1973年度	1	1,000 ^{EC}	2	20	/	/	<0.04	<0.04
		1,500 ^{EC}	2	20	/	/	<0.04	<0.04
茶 (荒茶) 1997年度	1	2,000 ^{EC}	2	205	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				206	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

注) ai : 有効成分量、PHI : 最終使用から収穫までの日数、- : データなし、
 EC : 乳剤、D : 粉剤、DL : DL粉剤、WP : 水和剤、MG : 微粒剤
 ・すべてのデータが定量限界未満の場合は定量限界値の平均に<を付して記載した。

<参照>

- 1 諮問書（平成 15 年 7 月 1 日付け厚生労働省発食安第 0701015 号）
- 2 7 月 1 日に厚生労働省より意見の聴取要請のあった、清涼飲料水の規格基準の改正について：第 1 回食品安全委員会農薬専門調査会資料 6 及び参考資料 1~6
- 3 食品、添加物等の規格基準（昭和 34 年厚生省告示第 370 号）の一部を改正する件（平成 17 年 11 月 29 日付け平成 17 年厚生労働省告示第 499 号）
- 4 農薬抄録 PAP（殺虫剤）（平成 21 年 3 月 27 日改訂）：日産化学工業株式会社、一部公表
- 5 JMPR：“Phenthoate”, Pesticide residues in food-1984 evaluations. nos 711 on INCHEM (1984)
- 6 食品健康影響評価について（平成 21 年 6 月 8 日付け厚生労働省発食安第 0608006 号）
- 7 食品健康影響評価に係る追加資料（要望事項に対する回答資料）〔フェントエート（PAP）〕：日産化学工業株式会社、2010 年、未公表
- 8 農薬抄録 PAP（殺虫剤）（平成 22 年 9 月 9 日改訂）：日産化学工業株式会社、一部公表